



高崎城主 井伊直政

傷だらけの若武者



乾櫓と東門 (城址公園)
井伊直政墓碑 (龍広寺)

赤鬼と呼ばれた徳川最強の武将

●戦場を疾駆した赤鬼

戦乱の世に「赤鬼」と恐れられた男がいた。その男の名は井伊直政、初代高崎城主である。徳川四天王と呼ばれ、主君家康のため、どの武将よりも命を賭したと言われる。

赤鬼というニックネームとは裏腹に、直政は容姿端麗の美少年であったという。武勇伝も数多いイケメンの猛将であったので、戦国ドラマのヒーローとして、もう少し直政が取り上げられてもよさそうなものだ。直政の働きからすれば、伊達政宗や前田利家くらいの知名度があってもいいのだが、まじめで無口、家康の参謀に徹したストイックな生き方は、作家にとつてはやや地味なのかもしれない。いずれにせよ、家康ドラマの名脇役として直政は欠かせない存在になっている。

赤鬼・直政は、朱塗りの甲冑で武装した精鋭軍を率い、自らも赤い鎧を身にまとって駿馬で戦場を疾駆した。命を惜みず、ただひたすら敵陣へと斬り込み、直政の体には、隙間がないほど刀傷が刻まれ

ていた。直政の軍勢は「井伊の赤備え」と呼ばれて徳川最強を誇り、戦場で敵軍を震え上がらせたという。

●直政が構想した壮大な高崎城

家康は直政の命がけの働きに対し、関八州の要、上州箕輪(高崎市箕郷町)に家臣最高禄の12万石の領地を与えた。直政は家康の命令で、箕輪から中山道と三国街道の要衝・和田に城を移すことになり、約2年をかけて新たなまちを建設し、慶長3年(1598)に箕輪城から移った。この時、地名を高崎に改め、現在の高崎の原型が生まれた。

もともとあつた宿場を移動し、新たな道路と町並をつくり、水路を整えてお堀に水を引くなど大規模な土木工事が行われたはずだ。堀に引く水の経路は軍事上の秘密にされたという。さらに城下町全体を幅10mの堀と高さ4mの土塁で囲んだ城塞都市でもあつた。高崎城は敷地約5万坪(16万5千㎡)の壮大な城郭で、築城術の集大成と言われる堅固な名城だ。城内は三重の堀と土塁が巡らされ、現在、城址公園には、一番外側の堀と乾櫓、東門が残っており、往時の面影を伝えている。明治時代に高崎城は廃城となり、解体されて民間に払い下げられたものが、場

所を移して復元されたものだ。高崎で直政は人生の大きな輝きを放った。

●龍広寺の一角に直政の墓碑

直政は関ヶ原の合戦(慶長5年)後、近江国(滋賀県)に移封し、建設途上の高崎から離れることになった。自らの手で高崎のまちを完成させたいと無念の思いだっただろう。直政の後任にふさわしい人物はなかなか見つからず、高崎では領主不在が長く続いた。近江に移った直政は、関ヶ原の鉄砲傷がもとで慶長7年2月1日、42歳で没した。直政が高崎の地名を決めるとき、龍広寺の白庵和尚に相談したとき、龍広寺の白庵和尚に相談したとき

れているが、その龍広寺に直政の墓碑がある。前面に直政の戒名、横に「高崎城主兵部少輔井伊直政」と刻まれている。直政の墓は彦根市などゆかりの地に何基かあるが、この墓碑の詳しい由来はわからないようだ。命日の2月1日には、高崎の開祖に供養をたむけたいものだ。

来年のNHK大河ドラマは、直政を育てた養母「直虎」を描くそうだ。直虎は直政が箕輪城に来る前に没しているが、直政と高崎の深いつながりも、これを機に注目されるのではないかと期待したい。